

授業概要

【戦争と文学表現】

主に 1937 年の日中戦争以降の日本文学で戦争と関わる文学作品を取り上げ、戦争を描くとはどういうことなのかという問題を、その当時の歴史的背景を考慮しながら考えていきたい。戦争は、作家の表現を規制する枷でもあったが、ある意味で作家の想像力を刺激する源泉でもあった。Ⅰは火野葦平の小説を取り上げる。授業は講義形式で行い、具体的な作品の読解、映像表現の比較などを中心に展開したい。授業内では、受講者各自の発言を求めたり、課題として、意見や考えを書いてもらったりする。

授業計画

第 1 回	ガイダンス 授業の概要と目標の確認
第 2 回	戦時下の文学概説①
第 3 回	戦時下の文学概説②
第 4 回	小説の中の〈戦争〉①火野葦平「麦と兵隊」
第 5 回	小説の中の〈戦争〉②火野葦平「麦と兵隊」
第 6 回	小説の中の〈戦争〉③火野葦平「麦と兵隊」
第 7 回	小説の中の〈戦争〉④火野葦平「土と兵隊」
第 8 回	小説の中の〈戦争〉⑤火野葦平「土と兵隊」
第 9 回	小説の中の〈戦争〉⑥火野葦平「土と兵隊」
第 10 回	小説の中の〈戦争〉⑦火野葦平「土と兵隊」
第 11 回	映画の中の〈戦争〉①「土と兵隊」鑑賞
第 12 回	映画の中の〈戦争〉②「土と兵隊」鑑賞
第 13 回	映画の中の〈戦争〉③「土と兵隊」分析
第 14 回	映画の中の〈戦争〉④「土と兵隊」分析
第 15 回	まとめ
第 16 回	課題提出

到達目標

- ①近代文学を読み考察することを通し、そこに存在する問題を自分なりの視点で見つけ、考察することができるようになる。
- ②近代文学において、戦争とはどういう存在なのか、それを描くことにまつわるさまざまな問題を見つけ、考察することができるようになる。

履修上の注意

欠席しないこと。特別の理由がない限りすべて出席するのが前提である。
日本文学特論（近現代）Ⅱを履修していなくても履修は可能である。

予習復習

- 【予習】指定された文章を期日までに読み終え、自分なりの感想、疑問を考えておくこと。
【復習】授業内容を踏まえ、再び作品について考えること。

評価方法

授業における課題（50%）・期末レポート（50%）を目安として評価する。

テキスト

火野葦平『土と兵隊 麦と兵隊』（社会批評社 1575 円）